

現代のユーモア v2.0 MOMASコレクション 2026.6.6～8.30

1984年に当館が開催した企画展「現代のユーモア」。ユーモアという言葉が内包する多様な要素——可笑しみ、遊び、滑稽、皮肉、諷刺、機知等々——と結びつく作品を網羅的に紹介したこの展覧会は、遊び心のある親しみやすい作品を単に見せるだけでなく、ユーモアの背後に潜む人間らしい情感や精神性を拾い上げる意図を持つものでした。あれから40年以上が経過した現在、高度なデジタル技術や人工知能の発展に伴い、あらゆる面で効率化や速度の追求が推進され、社会は更なる人間疎外の状況に陥っていると云えます。こんなときだからこそ、人間存在ならではの営為である「ユーモア」の力に、あらためて目を向けるべきではないでしょうか。MOMASコレクション「現代のユーモア v2.0」は、こうした視点のもと、1984年の展覧会を参照しながら新たな現代作家を加えてお届けする「進化版ユーモア美術展」です。

ところで、企画展「現代のユーモア」の図録には、佐藤忠良、赤瀬川原平、岡本信治郎といった作家たちによるウィットに富んだエッセイや、ユーモアの本質に迫る内容の論考が収録されています。ここで注目したいのが、文化人類学者・山口昌男による論考「絵画と笑い—カーニバル的想像力」です。この前半部分では、笑いが古くから恐怖や危機に対抗する重要な手段として儀礼に用いられていたこと、悪魔祓いとして行方祭り(カーニバル)の空間では秩序が崩壊して世界がさかさまになり、権威を笑い飛ばす道化が中心的役割を担ったことが記されています。このような道化の役割は、今回のMOMASコレクション出品作家にも当てはめることができるかもしれません。例えば、名画など世の中に流通するイメージに仕掛けを施し、伝統的な絵画の枠組みの解体を試みる福田美蘭(図1)や、様々な人物に扮した自分自身を写真に撮る手法で「他者」と「私」をオーバーラップさせることで、男／女、聖／俗といった境界を取り払い、既存の価値観に揺さぶりをかける森村泰昌は、想像力を武器に鑑賞者の固定観念や秩序を打ち砕こうとする現代美術界の道化的存在といえ

るでしょう。そして、谷川晃一に「ポップ・トリックスター」と称された美術家・秋山祐徳太子(本名:秋山祐徳)もまた、道化的存在として見逃すことができません。秋山は、道化やトリックスター研究の第一人者である山口と親交のあった人物でもありました。

秋山の主な表現手法は“行為芸術”、つまり、ある特定の場に自らの身体を介入させ、パフォーマンスを行うことでした。なかでも1970年代に行なった東京都知事選挙立候補パフォーマンスは、秋山の名前を一躍有名にした戦後美術史における伝説的な行為芸術として知られています。無論、秋山は本気で都知事になろうと考えたわけではありません。本人の関心はむしろ、「落選必至と知りながら何度でも立候補して止まない」人たち——いわゆる泡沫候補——にありました。彼らにある種の美しさを見出した秋山は1975年、仲間らの協力のもと供託金を支払い、無事に泡沫候補の一人として都知事選に初立候補。選挙ポスター(図2)の制作や掲示板への貼り付け、街頭演説など、選挙運動に係るあらゆる行為を芸術と捉えて実践していきました。一見、突拍子もないように思える秋山の行為芸術ですが、面白いことに選挙公報ではいたって真面目にマニフェストを書いています。また、立会演説会では堂々とした口調で「一字違いの聖徳太子とは別に親戚ではございません」と話し観客の笑いを誘った一方で、候補者のたすきをして街中を歩くのが実は恥ずかしかったというのです。政治と芸術の境界に立ち、馬鹿馬鹿しさと誠実さを表裏一体に見せる姿からは、秋山の「ポップ・トリックスター」ぶりが窺えます。なお、この選挙戦で秋山は3101票を獲得し、候補者16人中5位に食い込みました。

本展「現代のユーモア v2.0」では、1984年の展覧会出品作家である福田繁雄、囃囃らの作品を含め、絵画、立体、版画、彫刻…と多様なジャンルのユーモア作品をご紹介します。笑いと発見に満ちた作品たちとの出会いを、ぜひ展示室で体験してみてください。(S.A.)

重村三雄の「カタメタージュ」

当館の屋外展示場の一番奥にある階段には、人物を象った3体の彫刻が並んでいます。重村三雄(1929～2012)によるこれらの彫像《階段》(図1)は、長期の野外設置により表面の劣化が進んでいたため、階段のタイルの修繕にあわせて現在修復を進めています。まさにこの場所のために制作された本作が設置されたのは、1990年10月のこと。35年以上の月日を美術館の傍らで過ごしてきた作品です。

重村の彫刻は一見すると金属製だと思われるかもしれませんが。実は重村の彫刻の多くはFRP(繊維強化プラスチック)という素材が用いられており、その上に金属調の塗装を施したものです。奄美大島出身の重村は、学徒動員など厳しい戦火の日々のなかで美術の道を志し、終戦後に密航船で本土へと渡ります。神戸で就職し美術研究所に学んだ後、1957年、大手マネキン会社への就職を機に、東京や埼玉を拠点としました。

初期は主に油彩画に取り組みましたが、当時、新しい素材として注目されていた合成樹脂との出会いが、重村を立体造形の道へと導きます。プラスチック工場などに勤め、蠟の原型を使った電鑄の技術や発泡樹脂などの扱いを習得した重村は試行錯誤の末、身の周りにある事物を直接的に型取り、ポリエステル樹脂で固める手法を確立しました。美術評論家の瀬木慎一はこれを「カタメタージュ」と名付け、重村について「画廊をモナストリーとして、この沈黙を固め、空虚を固め、眠りを固め、時間を固める」と評しました。*

重村による面白い試みの一つが、1978年に銀座和光のショーウィンドウで展開された《燻し銀の世界》です。2007年のMOMASコレクションの再現展示を覚えている方もいらっしゃるかもしれません(図2)。重村は不特定多数の眼に触れる街角のディスプレイを一種の個展の場と捉え、ニューヨークで見かけた道路工夫の姿を元に、ユーモアの中に緊張感が漂う宝石泥棒の群像を生み出しました。燻し銀色の塗装は、指紋まで再現された限りなくリアルな虚像の違和感を浮かび上がらせ、鑑賞者を見ることを促す仕掛けでもありました。当館の《階段》はそんな重村の「カタメタージュ」の世界を間近で堪能することができます。間もなく修復を終えて、夏までに公開予定です。どうぞお楽しみに!(S.Y.)

*新宿紀伊国屋画廊企画、個展案内より、1976年9月23-28日



図1 | 福田美蘭《湖畔》1993年 アクリル絵具、カラーコピー、パネル
黒田清輝の代表作《湖畔》の画面外を想像し、風景のイメージを拡大して描いている。左下のオリジナル部分は模写ではなく原寸大のカラーコピー。



図2 | 秋山祐徳太子(東京都知事選挙立候補ポスター「TOKYO ラブソニー」)1975年 オフセット印刷、紙語呂の良いキャッチコピー「保革の谷間に咲く白百合」が目を惹く選挙ポスター。サブカルチャー・マガジン「感電キング」で秋山とともに連載をしていた漫画家・島本慶がデザインを手がけた。



図1 | 重村三雄《階段》(部分)1989年 FRP



図2 | MOMASコレクション「アーティスト・プロジェクト 重村三雄: カタメタージュの世界」展示風景、2007年

MUSEUM NEWS 2026.7 ▶ 2026.9

密やかな美 小村雪岱のすべて

企画展

7/11(土)～9/23(水・祝) | 2階展示室

関連イベント
各イベントの詳細は当館ホームページをご覧ください。



講演会 | 2階講堂

定員 | 80人(当日先着順) / 費用 | 無料
各回、当日13:30より2階講堂前にて整理券を配布します。

「挿絵画家としての小村雪岱」

8/16(日) 15:00～16:30

講師 | 真田幸治(装幀家、小村雪岱研究家、大阪芸術大学特任教授)

「掌上の愉悦—雪岱の装幀」

8/30(日) 15:00～16:30

講師 | 平田雅樹(牙鳥文庫主人)

「旅の所産—鏡花、雪岱、千草館」

9/5(土) 15:00～16:30

講師 | 穴倉玉日(泉鏡花記念館学芸員)

「歌舞伎を彩る舞台美術の魅力」

9/20(日) 15:00～16:30

講師 | 岡崎哲也(松竹株式会社顧問、歌舞伎座舞台株式会社社長)

担当学芸員によるレクチャー | 2階講堂

8/22(土)、8/29(土) 各15:00～16:30

定員 | 80人(当日先着順) / 費用 | 無料
※各回で内容が異なります。

担当学芸員によるギャラリートーク | 2階企画展示室

7/12(日)、7/26(日)、8/23(日)、9/6(日)

各15:00～60分程度 ※7/26は手話通訳付き
費用 | 企画展観覧料 ※9/6は音声字幕付き

上映会 | 2階講堂

雪岱が初めて本格的に美術考証を担当した映画作品「春琴抄 お琴と佐助」(1935年公開)他、1930年代の貴重な映像をお楽しみください。

8/9(日)

定員 | 50人(当日先着順、入替制) / 費用 | 無料
※詳細は当館ホームページにてお知らせします。

ミュージアム・カレッジ 2026 | 2階講堂

「小村雪岱の世界」

企画展にちなみ、埼玉大学教養学部と当館が共催する公開講座です。

定員 | 80人(当日先着順) / 費用 | 無料

「隠された手—小村雪岱の美人画における身体表現をめぐる—」

7/17(金) 15:00～16:30

講師 | 清水紀枝(埼玉大学大学院人文社会科学部准教授)

「小村雪岱のデザイン」

7/19(日) 15:00～16:30

講師 | 辻絵理子(埼玉大学大学院人文社会科学部准教授)

「『大衆』の時代を考える—小村雪岱の仕事を入口として—」

7/24(金) 15:00～16:30

講師 | 杉浦晋(埼玉大学大学院人文社会科学部准教授)

「小村雪岱の旅行記」

8/2(日) 15:00～16:30

講師 | 菊地真央(当館学芸員)

お問合せ | 埼玉大学総務部広報渉外課ミュージアム・カレッジ担当 / TEL | 048-858-9213

MOMAS コレクション

収蔵品展

6/6(土)～8/30(日) | 1階展示室

[セクション] テルヴォーほか

[小村雪岱と谷崎潤一郎]

企画展「密やかな美 小村雪岱のすべて」に関連した小特集です。

[現代のユーモア v2.0]

1984年に開催した企画展「現代のユーモア」を手がかりとしながら、芸術表現におけるユーモアを今日の視点からとらえなおします。

観覧料 |

一般200円(120円)、大高生100円(60円)

コレクション・トーク | 1階展示室

学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用 | MOMAS コレクション観覧料

7/18(土) 15:00～15:30

担当学芸員 | 佐藤あゆか

作品 | 森村泰昌《花と包丁》1990年

8/9(日) 15:00～15:30

担当学芸員 | 菊地真央

作品 | 谷崎潤一郎《近代情痴集》(装幀:小村雪岱) 1919年

9/5(土)～11/29(日) | 1階展示室

[セクション] シャガールほか

[特集] 堀浩哉:ゼロからの実践]

美術やその制度を根本から問い直すところから作家活動を始めた堀浩哉(1947～)。新規収蔵の絵画も含め、1960年代末から2000年頃までの制作の軌跡を辿ります。

観覧料 |

一般200円(120円)、大高生100円(60円)



堀浩哉《鑑賞を拒否する》1969/1992年 麻布、木(2点組)

コレクション・トーク | 1階展示室

学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用 | MOMAS コレクション観覧料

9/27(日) 15:00～15:30

担当学芸員 | 平野到

作品 | 堀浩哉《鑑賞を拒否する》1969/1992年

MOMASステーション

7/11(土)～8/23(日) | 1階エントランスロビー

夏休み限定の子供向け受付「MOMASステーション」を設置します。初めて美術館に来る子供たちや、美術館に関する宿題がある子供たちに、美術館を楽しむためのワークシートや参考になる資料を提供したり、研修を受けたボランティアスタッフが相談に応じたりします。お気軽にご利用ください。

対象 | どなたでも / 費用 | 無料

アート体感ワークショップ MOMAS のとびら

フリープログラム以外は、全プログラム事前予約制です。当館ホームページからお申込みください。



※ 応募が定員以上の場合は、抽選とさせていただきます。

※ 開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みできますが、ご参加いただくのはそのうち1日のみとなります。

8月のプログラム 7/1(水)から申込受付

サマー・アドベンチャー

「丸シールでアート作品に挑戦! vol.2」

8/1(土) 10:30～12:30、14:00～16:00

講師 | 大村雪乃(現代美術家)

対象 | 小学生～大人 / 費用 | 1000円

「フリープログラム DAY」

8/15(土) 10:30～12:00、14:00～15:30

申込 | 不要 / 対象 | どなたでも

費用 | 無料(高校生以上は、MOMAS コレクション観覧料が必要なプログラムがあります。)

「織物 BAR at MOMAS」

8/22(土) 10:30～12:30、14:00～16:00

講師 | 久村卓(美術家 / 彫刻家)

対象 | 小学生～大人 / 費用 | 1000円

9月のプログラム 8/1(土)から申込受付

「フリープログラム」

9/12(土) 13:30～15:00

申込 | 不要 / 対象 | どなたでも / 費用 | 無料

「親子クルーズ」

9/19(土)、26(土) 各13:30～15:00

対象 | 小・中学生 + 保護者 / 費用 | 500円

10月のプログラム 9/1(火)から申込受付

「フリープログラム」

10/3(土) 13:30～15:00

申込 | 不要 / 対象 | どなたでも / 費用 | 無料

「彫刻あらいぐま」

10/10(土)、24(土) 各13:30～15:00

対象 | 小・中学生 + 保護者 / 費用 | 無料

「作品のみかた・発想のしかた」

第4回「公募展」みつめて、かんじて、たべてみて!

—作品のみかた・味わいかた」関連イベント

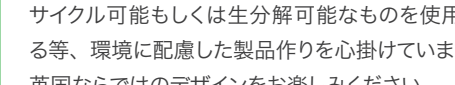
7/29(水)、7/30(木) 各10:30～11:30

課題作品を美術館スタッフと一緒に鑑賞してアイデアスケッチや応募作品を制作します。

対象 | 県内小中高生

申込 | 不要 / 費用 | 無料 ※

※ 高校生は観覧料 100円



重村三雄「作品のみかた・発想のしかた」

「作品のみかた・発想のしかた」

イギリスの活版印刷ブランド Archivist の封筒カードのご紹介です。ドイツのハイデルベルク印刷機を用いて一枚一枚丁寧に印刷しています。インク・紙などの材料はもちろん、パッケージ袋までリサイクル可能もしくは生分解可能なものを使用する等、環境に配慮した製品作りを心掛けています。英国ならではのデザインをお楽しみください。

一般展示室(地階)

※日程・展示会名は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。展示会名の右端の数字は展示室の番号です。

6/30(火)～7/5(日) | 展示室番号

第45回埼玉県高等学校写真連盟写真展 | 1

現代アート「実験 02」展 | 2

2026 阿佐見昭彦写真展 | 3

Art Little Shine 2026 展「OLD and NEW」 | 4

7/7(火)～7/12(日)

第24回埼玉独立展 | 1

埼玉モダンアート展 | 2～3

第20回写真サークル「観悠」作品展 | 4

7/14(火)～7/19(日)

第52回埼玉二紀展 | 1～4

7/21(火)～7/26(日)

第31回基の会展 | 2

第36回白の会洋画展 | 3

埼玉の版画家 5 人展 | 4

7/28(火)～8/2(日)

ariARU Creationz 藝術企画恒星画展 | 3

G.S. カービル・渡邊早苗展 | 4

8/4(火)～8/9(日)

第60回記念埼玉平和美術展 | 1～4

8/11(火・祝)～8/23(日)

人間国宝を感じる展 | 2

8/11(火・祝)～8/16(日)

Weaving Light | 3

egg plus2026in美術館 | 4

8/18(火)～8/23(日)

第38回墨芳展併催第12回墨芳学生展 | 1～3

新洋画会埼玉支部展 | 4

8/25(火)～8/30(日)

2026 モダンアート明日への展望展 | 1

第62回全展 | 2～3

第44回茨水会展 | 4

9/1(火)～9/6(日)

第38回埼玉創元展 | 1

第64回公募新構造埼玉展 | 2～4

9/8(火)～9/13(日)

第43回埼玉県写真サロン | 1

第13回東アジア3ヵ国陶房工芸国際交流展 | 2

(韓国、日本、台湾)

純展埼玉支部展 | 3

日本リアリズム写真集団浦和支部第14回写真展 | 4

9/18(金)～9/20(日)

第69回埼玉書道展併催高等学校書書の部 | 1～4

9/22(火・祝)～9/27(日)

公募第58回第一美術協会埼玉支部展 | 1

第18回フォトサークル・オプト写真展 | 2

フォトグループWAVE 第40回写真展 | 3

第16回ニコールクラブさいたま支部写真展 | 4

9/29(火)～10/4(日)

第47回太平洋埼玉展 | 1

水彩アトリエ展示会 | 2

第44回キヤノンフォトクラブ浦和写真展 | 3

全日本写真連盟浦和支部写真展 | 4

本紙記載の展覧会やイベントは、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。

埼玉県立近代美術館

所在地 | 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1
TEL | 048-824-0111 FAX | 048-824-0119 MAIL | p240111@pref.saitama.lg.jp
開館時間 | 10:00～17:30 (展示室への入場は 17:00 まで)
休館日 | 月曜日(7/20、9/21は開館)、6/23～26
入館料 | 無料 観覧料 | 上記をご覧ください。

交通 | JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ 埼玉県立近代美術館」では駐車料金の割引があります。
お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。<